

実績報告

2021.2.16 ▶ 2023.3.31



にんしんSOS愛知



Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

T. TANAKA



はじめに

「2011年7月に厚生労働省から各都道府県へ出された『妊娠期からの妊娠・出産・子育て等に係る相談体制の整備について』の通知を受けて、0か月の子どもの虐待死をなくすことを目標に、全国の都道府県や自治体が妊娠SOS相談を開始する動きが始まった。」¹

公社)愛知県助産師会では、愛知県から委託され「女性の健康なんでも相談」を行っており、年間10件程度ですが予期せぬ妊娠に悩む女性からの相談を受けておりました。しかし、電話で話を傾聴し、支援先を紹介することしかできず、その先の支援につながったのだろうかと心配し、もっと直接的に支援できたらという思いをもっていました。

そうしたなか、2020年8月、「にんしんSOSの新規立ち上げ」の日本財団助成金募集案内がありました。その2か月前の6月に西尾市で、20歳の未婚女性が公園のトイレで出産し、そのまま死なせてしまう事件が起きていました。男性の中絶手術の同意が取れないことで、2か所の病院で断られ、手術可能な時期を逃した背景があり、助産師として心を痛めてもいました。

公益社団法人としての助産師会の役割は何か。ひとりの助産師として何をしたいのか。当時の理事として他の理事と共に長い時間をかけて協議しました。「公益社団法人として社会に必要な課題に向き合うべきではないか」という意見と「何も土台のない状況でやっていけるのか」、また、当時、約530名の会員の会費で運営されており、日本財団助成事業額の2割が自己負担となるため、「会が破綻するのでは」と反対意見も強くありました。しかし、「やはり私たちがやるべきではないか」「社会にとって必要な事業」ということで、最終的に理事会での多数決決議となり助成金申請に至りました。無事に助成金の受託ができ、2020年10月から準備を始めました。まずは、当会会員に向けて準備のサポートを呼びかけ、32名の会員が役割分担をしました。コアメンバー4名を中心に、相談員、ホームページ、資料集め、資料作成、同行支援、居場所提供のチームに分かれ、フローチャートや規定を作成しました。こうして、2021年2月から助産師8名・社会福祉士1名で相談支援事業がスタートしました。全国妊娠SOSネットワークの伴走支援を受けることができたおかげで、相談員全員がケース検討会を重ねるごとに質を高め、学びを深めることができました。相談員をはじめ会員助産師は、病院・保健センター・地域で開業など、いろいろな場で勤務をしています。地域の病院、行政機関と顔の見える関係があり、妊婦さんの受け入れがスムーズに行われるネットワークがあること、予期せぬ妊娠を防ぐための性教育講師派遣ができるのも当会の大きな強みになっています。

今後も、困っている妊婦さんと赤ちゃんが救われるように、よりよい社会を目指して、相談員一同、心をひとつに、活動をしていきたいと思っています。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

2020年事業立ち上げ時担当理事 小島 夕起子 祝 由香里

¹ 赤尾さく美・松岡典子・佐藤拓代・田中美花『妊娠相談の現場で役立つ！妊娠SOS相談対応ガイドブック 第7版』、一般社団法人全国妊娠ネットワーク、2023年、1頁。

概要と実績

概要

- 2021年2月16日 開設
- 電話・メール相談
火・木・土・日曜日 18時～21時
- テレワークでの相談員2名体制
- 面会相談
- 関係機関への同行支援
- 短期居場所提供
- 啓発活動（性教育の実施）

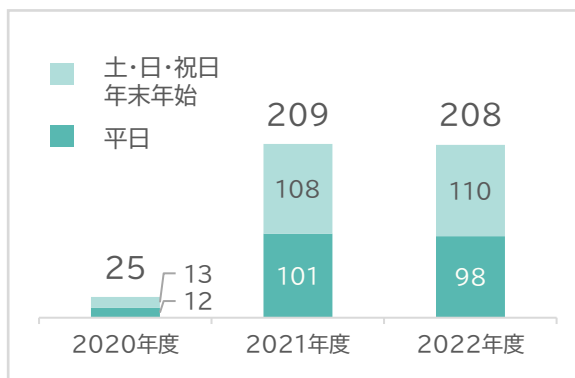
特徴

- 「なごや妊娠SOS」以外の曜日に設定
全ての曜日に相談窓口を実現
- 仕事や学業を考慮した夜間相談
- 休日・祝日・年未年始も実施
- 愛知県全域対象
- 研修を受けた
助産師8名と社会福祉士1名が対応
- メールによる継続フォロー
- 関係機関への同行支援と短期居場所提供
- 愛知県助産師会会員による
保健医療機関のネットワークを活用
- 性暴力救援センター日赤なごや
「なごみ」と連携

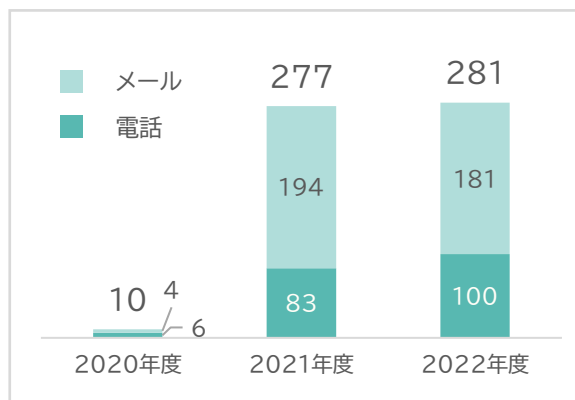


実績

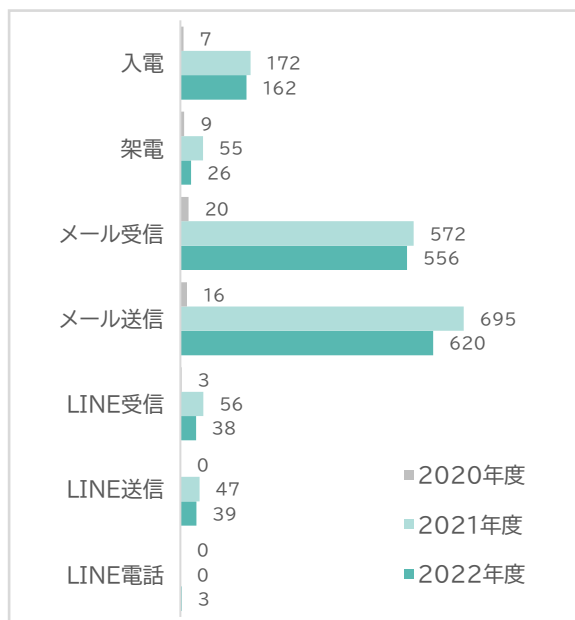
1. 相談日数（日）



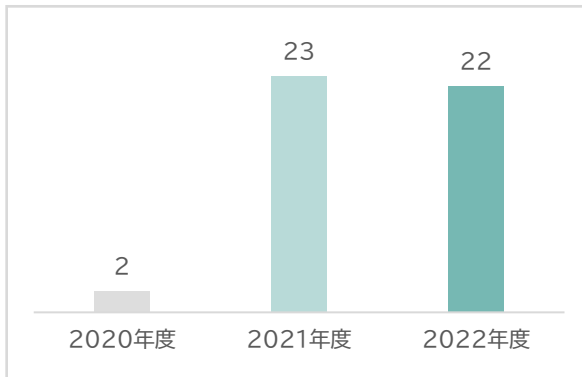
2. 相談実数（件）



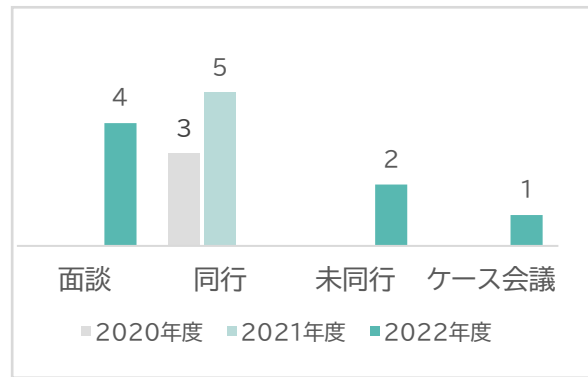
3. 対応延数（件）



4. 他機関連携 対象数 (名)

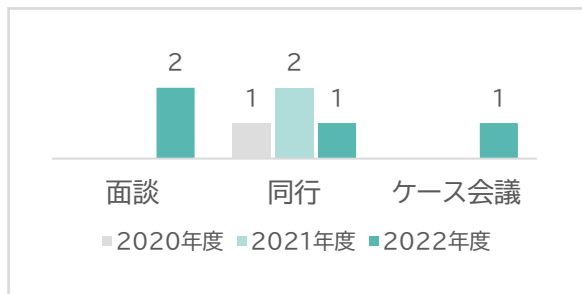


6. 面談・同行・ケース会議 延数 (件)

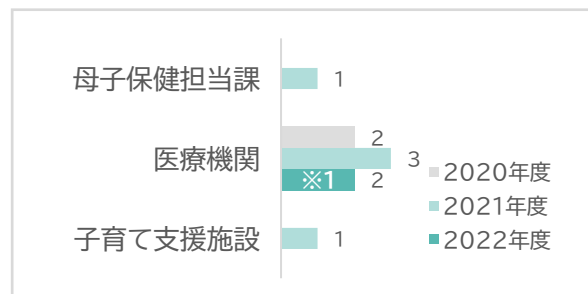


※ 未同行:対象者が現れなかった

5. 面談・同行・ケース会議 対象数 (名)

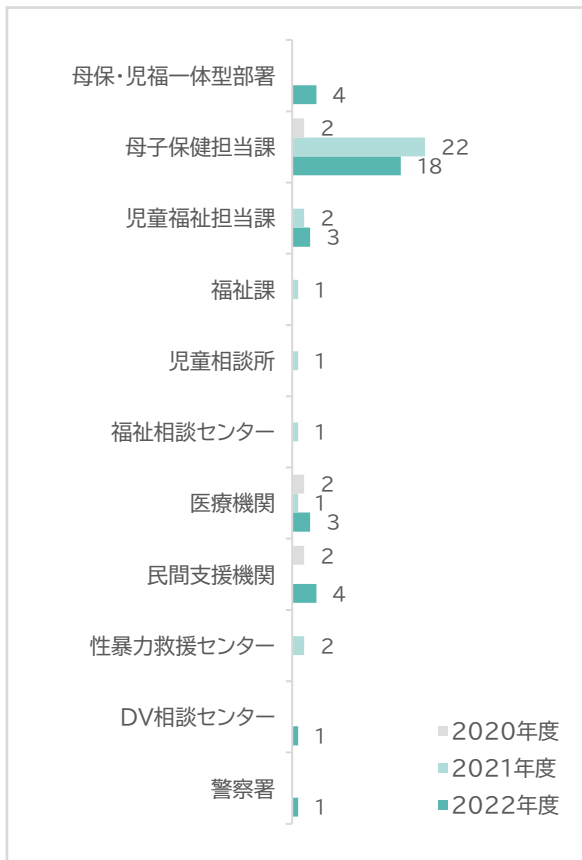


7. 機関別 同行数 (件)



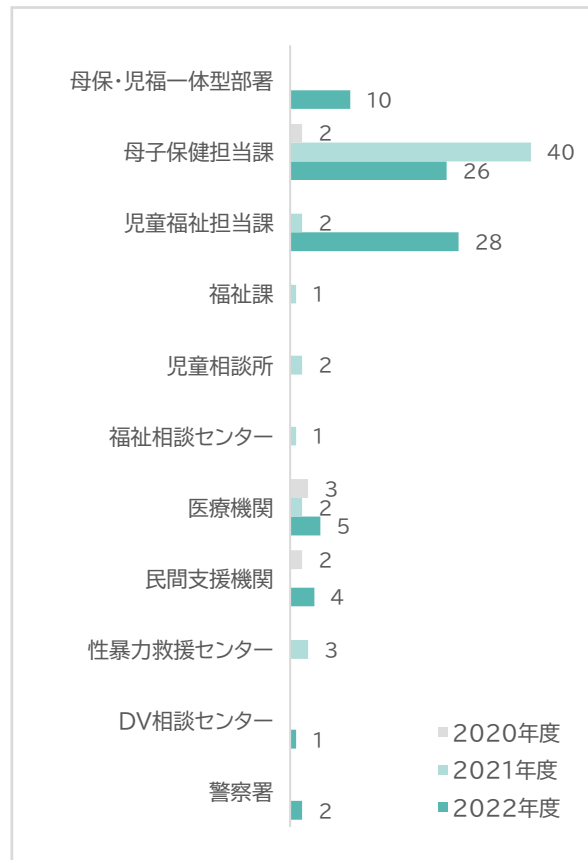
※1 未同行:対象者が現れなかった

8. 機関別 連携対象数 (名)



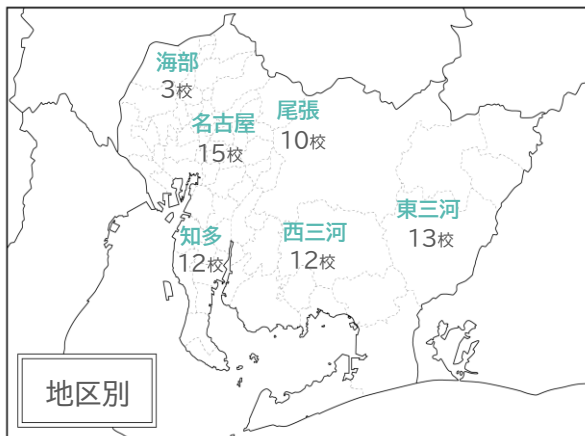
※ 複数機関の連携あり

9. 機関別 対応日数 (日)



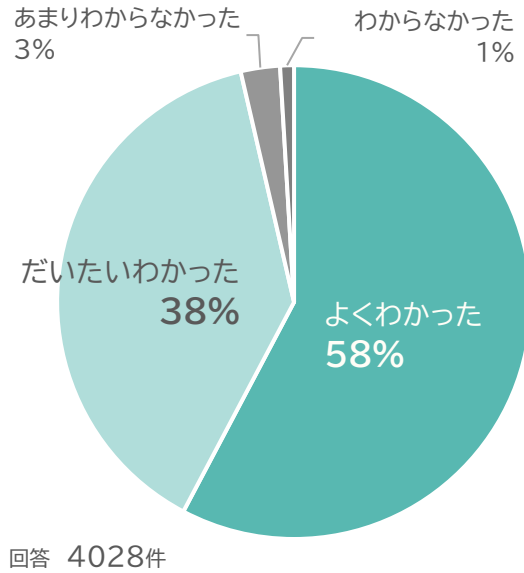
10. 啓発活動(性教育)

	2021年度		2022年度	
	校	人	校	人
小学校			5	282
中学校(公立)	3	929	28	4608
中学校(私立)			2	125
高等学校(公立)			4	1135
高等学校(私立)			1	15
定時制	3	185	2	80
専修学校	1	57		
専門学校	1	75	1	67
特別支援学校	3	81	11	473
合計	11	1327	54	6785

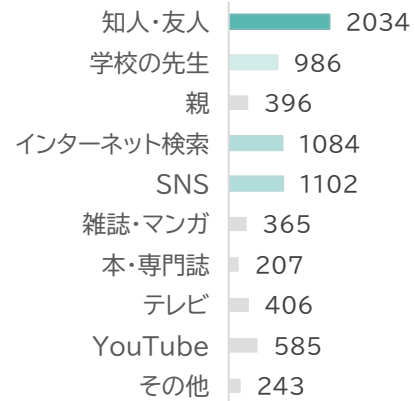


中高生 アンケート結果

① お話しの内容は、わかりましたか？



② 性の情報はどこから得ていますか？



回答 3866件

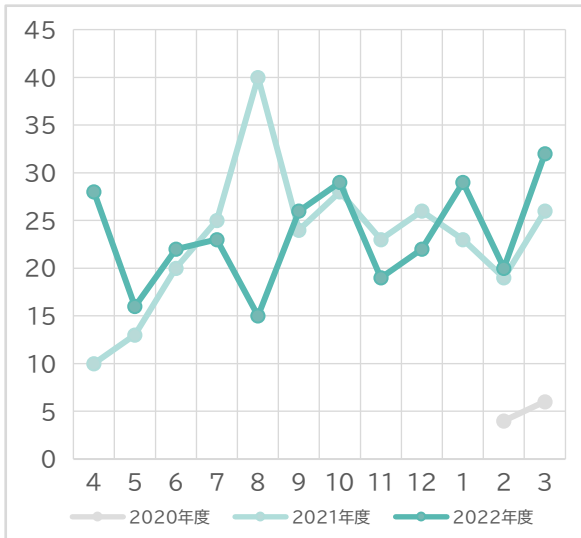
※複数回答あり

©2024 公益社団法人愛知県助産師会

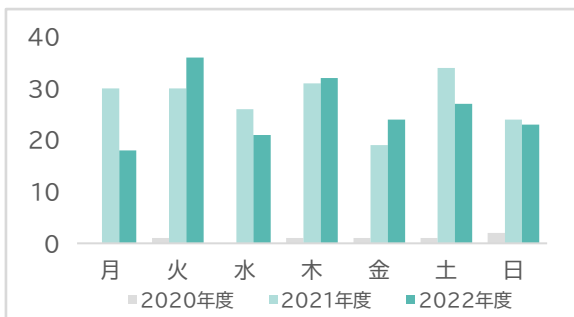
詳細

相談数

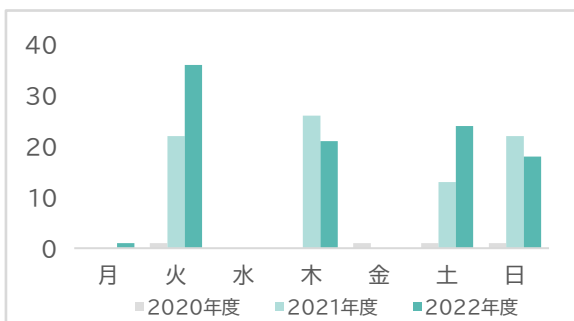
1. 月別相談実数（件）



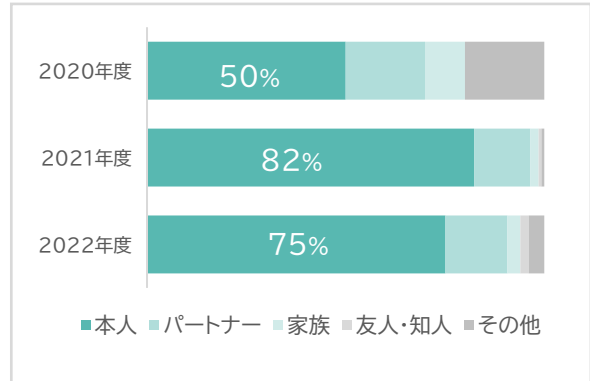
2. 曜日別相談実数 メール（件）



3. 曜日別相談実数 電話（件）

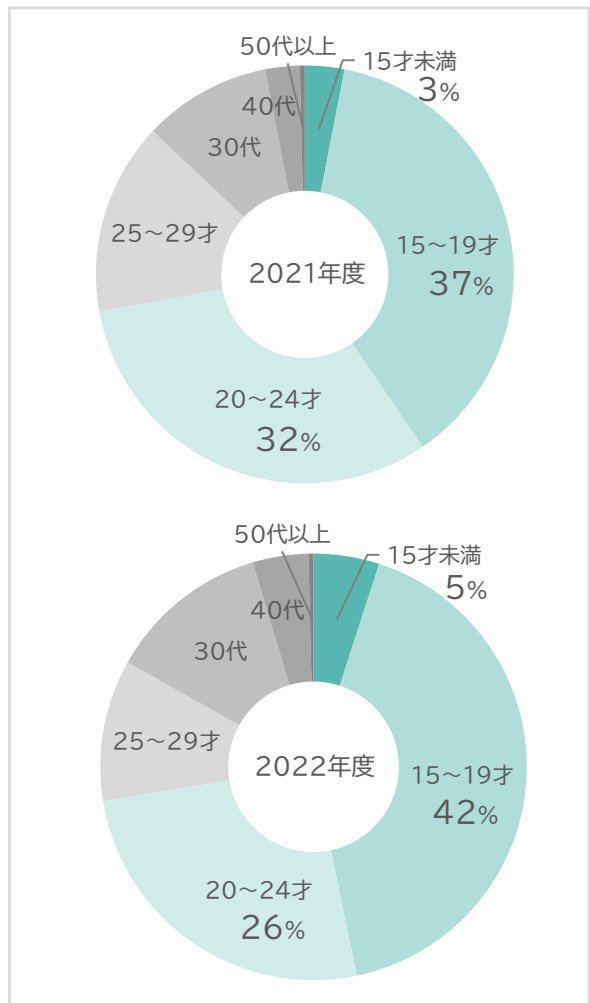


相談者

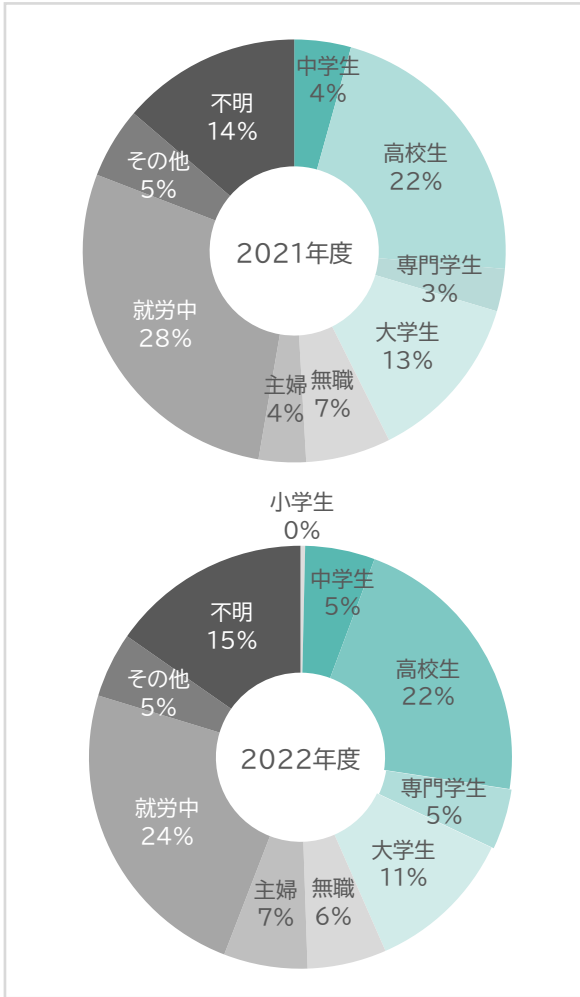


対象者

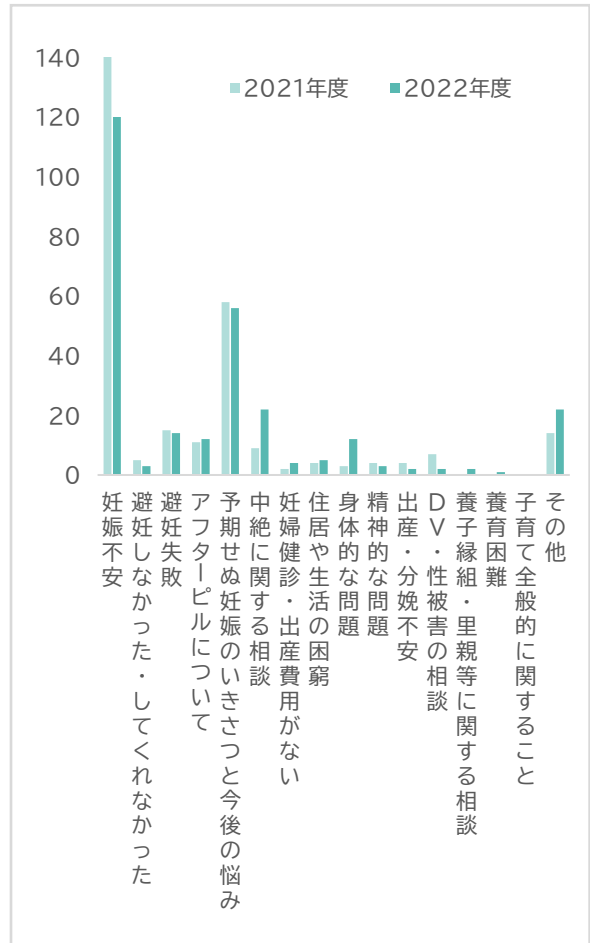
1. 対象者 年齢別 (%)



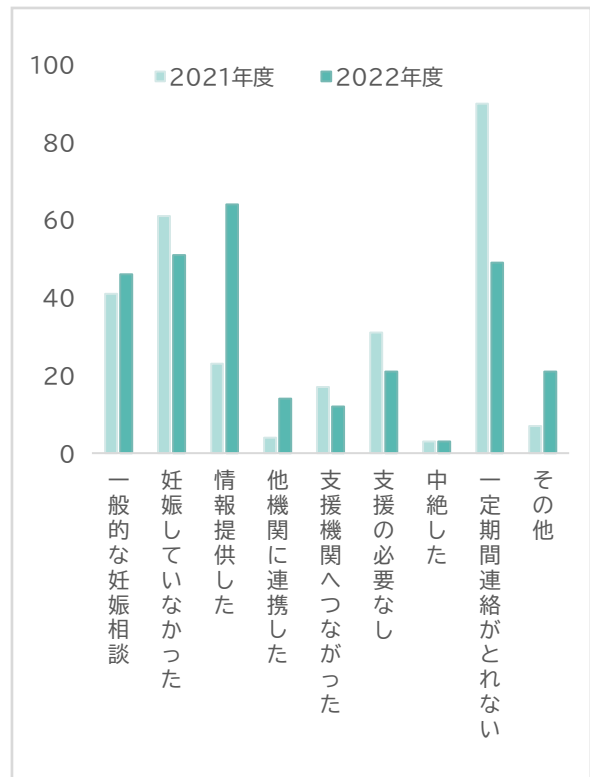
2. 対象者 社会的背景 (%)



主な相談事項 (件)

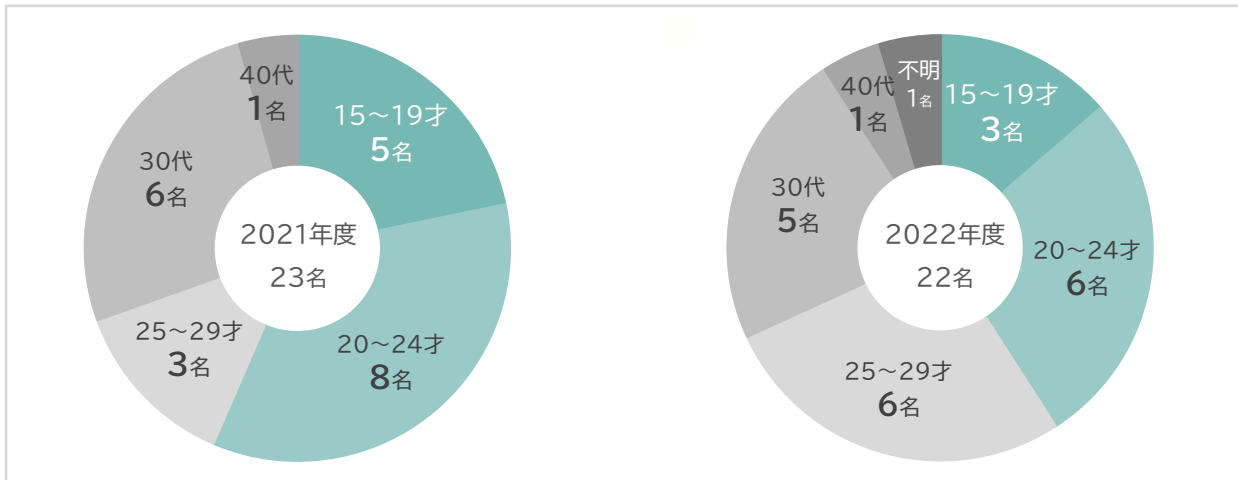


終了判断理由 (件)

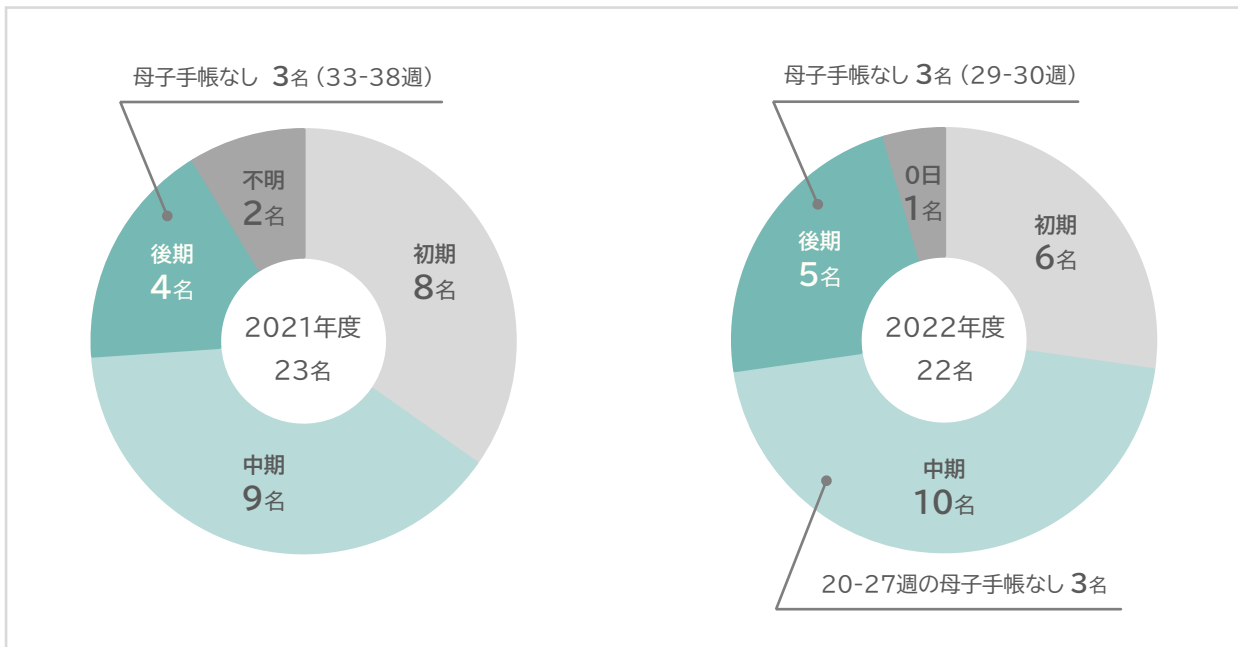


他機関連携

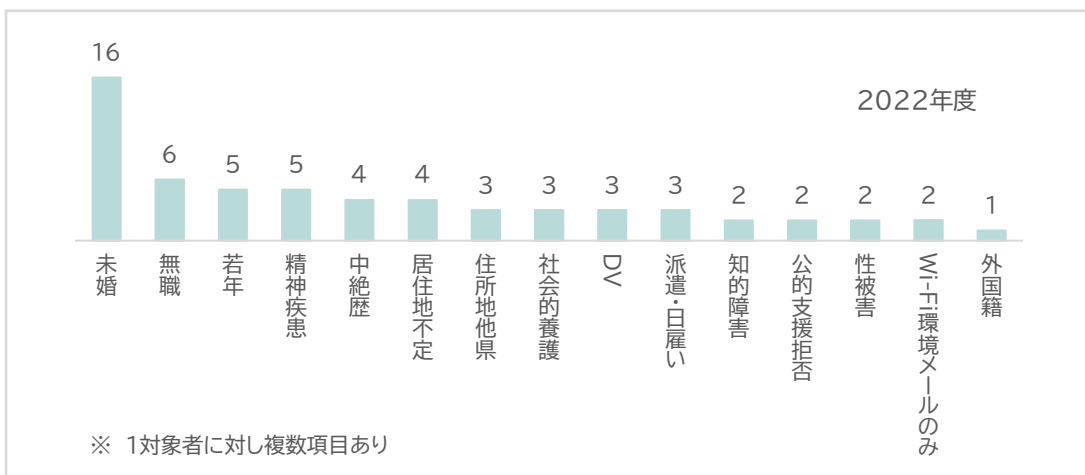
1. 年齢 (名)



2. 初回相談時妊娠期 (名) ※ 初期(~13週6日)・中期(14週0日~27週6日)・後期(28週0日~)



3. 背景 (名)



ケースから見える課題と必要な支援

課題1 初診料がなく受診できない
未受診のまま妊娠後期となっている
公的支援につなげることができない

自己申告での妊娠届や助産師記載の妊娠届出書も受け付けないなど自治体で異なり
費用負担軽減のための妊婦健康診査受診票が交付されず受診が困難に

参照1

母子保健法施行規則第3条
妊娠の届出に必要な事項

- ①届出年月日②氏名、年齢、個人番号および職業
- ③居住地④妊娠月数
- ⑤医師又は助産師の診断又は保健指導を受けたときは、その氏名
- ⑥性病及び結核に関する健康診断の有無

参照2

性と健康の相談センター事業
特定妊婦等に対する産科受診等支援加算
受診費用(10,000円)
交通費(2,000円) R5年度拡充

課題2 住民ではない
妊婦健康診査受診票は交付されない
生活保護申請に定住の意思を確認される

参照3

厚生労働省H.28.10.21付通知
「無戸籍の児童に関する
児童福祉等行政上の取り扱いについて」
戸籍及び住民票における記載の有無にかかわらず
当該市町村に居住している実態を確認できれば
母子保健の対象となる

参照4

生活保護 現在地保護の原則

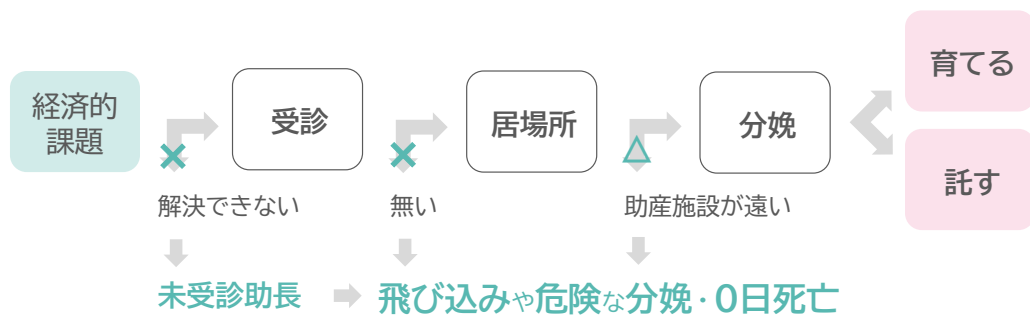
課題3 居場所がない
单身妊婦入所施設はごくわずかで入所困難
民間シェルター頼み(2部屋)

参照5

婦人保護施設(スマホ利用不可・外出制限)
母子生活支援施設(一時保護委託・特定妊婦等支援
臨時特例事業)

参照6

性と健康の相談センター事業
若年妊婦等支援強化加算
緊急一時的な居場所確保



近年の愛知県内の出産後遺体遺棄 (報道されているもののみ)

- 2023.6 名古屋市名東区 自宅トイレ 34才
- 2023.4 常滑市 実家の庭 27才
- 2022.9 名古屋市中区 ホテル 21才・20才
- 2022.9 名古屋市北区 マンションの室内
- 2021.6 西尾市 公園 学生 21才
- 2017.5 名古屋市緑区 高校生 16才

課題における
必要な支援

- 母子の**生命保護**最優先
- **産科受診支援**や住民票のない妊婦にも**妊婦健康診査受診票交付**
- 生活保護における**現在地保護**の原則に基づく運用
- 妊娠期から子育て期の切れ目ない**住居確保**の支援
- 支援入口の確保と**包括的支援**→妊娠葛藤相談**にんしんSOS愛知**の継続

声

by 相談者さん & 相談員



不安を吐き出せる場所、気にかけてくださる方がいること、とてもうれしく心の支えになりました。

他県の妊娠SOS窓口から「お腹の大きい未受診の妊婦さんがいます。」と連絡が入り夜間救急の診察可能な病院でお会いできました。まじめな普通の女の子の印象でした。頼れる大人が一人もいなかった彼女が、一歩勇気を出して、誰かにつながることで無事出産されました。命を守り、そのホッとした顔を見ることができたことが何より相談員の喜びとなりました。



この事業を始めるにあたり、様々な方々の協力や支援により作り上げられてきたところから関わることができて幸いです。今後も、どこかで困っていると声にできないメッセージに、一生懸命力になっていきたいです。

愛知県助産師会で、思いがけない妊娠の相談窓口を行うことになったと聞いて、必要なことだと感じやってみようと思いました。コロナ禍でZOOMでの研修・会議でしたが、全国妊娠ネットワークの方々のサポートがありドキドキの中、最初の相談担当を迎えてから3年が経ちました。まだまだ勉強の日々ですが、相談者に寄り添い一緒に考えていくことができればと思っています。



家族も応援してくれると言ってくれたので、自分の決断に自信をもって前を向いていきたいと思っています。



「親にも誰にも知られたくない」と相談メールは短い。返信してもすぐに戻ってこない。時期をみて「ひとりで悩んでないか心配です」と送る。ぼつぼつしたやり取り。妊娠と思わず体調がわるくて休んでいたら解雇された。派遣先のアパートの退去が3日後、郵便物も見に行けない程体調の悪い中、今日電気が止まった。親も彼も頼れないし、友達もいない。死にたい。こうしてやっと面談ができた。このようにぎりぎりにならないと見も知らぬ人に怖くて会えないんですね。

予期しない妊娠に困惑する中、人に相談するのは本当に勇気がいることだと思います。友達にも学校の先生にも親にも相談できずに悩んで、お金もなく病院にも行けず。。。人生のとても大きな選択をする中で、その人にとって最善の選択ができるようサポートできたらと思っています。これからも悩む女性に寄り添える存在でありたいと思っています。



あの時は、ありがとうございました。今は、子どもと楽しく過ごしています。

相談窓口立ち上げから関わらせていただき、若年相談者の多くは性教育不足により自分と相手を思いやる行動ができないために、悩み・不安に押しつぶされそうな状態で相談されます。このような相談をへらすためには、しっかりと性の教育を適切な年齢で学習する機会が大切であると考えます。



相談員として正しい知識の普及活動も継続・拡大していきたいと考えます。

思いがけない妊娠の不安を、ひとりで抱えている方が多く、両親には言えない、パートナーには言えないと思込んでいる気持ちをほぐし、支えるチームが作れたらと、相談を聴いています。なかには、困難な背景を抱えられ、社会や人に対しての信頼する力を奪われている方もいます。



妊娠をきっかけに、多職種・多機関で小さな命を守ることで、お母さん自身もやっと支援に繋がれた事例もありました。これからも、最初のSOSを丁寧に聴き、専門機関としっかり協働していきたいと思っています。

定まった居所のない方が、途切れてしまいそうなたつなぎの中、県内を横断して安全に出産され、赤ちゃんと対面された時、涙を流されたことをお聞きしました。また、新たな歩みを始めようとしていた矢先に、度重なる出来事の中、戸惑い、悩み、気持ちを整理しながら前に進んでいかれた方もありました。



安心・安全な妊娠・出産には、妊娠葛藤相談も必要な窓口ではないでしょうか。

おわりに

「にんしんSOS愛知」による妊娠葛藤相談対応が始まって約3年が経ちました。立ち上げの頃から、(一社)全国妊娠SOSネットワークによる伴走支援を行なってきましたが、愛知のメンバーの方々の明確な目的意識、チームワーク、民間力や地元のネットワークを活かした柔軟な対応とシステム作りは、非常に頼もしく、伴走支援できることを光榮に思っています。

この3年間にも、国の方では母子保健分野、児童福祉分野ともに、予期しない妊娠をした女性に対する相談対応と居場所支援の重要性が謳われ、財源が拡充されてきました。2024年度からは、妊産婦等生活援助事業が始まり、社会的養育推進計画にも盛り込まれるところです。他県から仕事を求めて移動してきている女性も多い愛知県で、妊娠葛藤相談のノウハウや産前産後の支援に長けている母子保健系の法人と、居宅支援(インケア)に長けている児童福祉系の法人で、しっかり連携を取りながら更に充実した支援が展開されることが期待されていると思います。「にんしんSOS愛知」のチームメンバーたちが培ってきたスキルと、変わらない思いが、予期しない妊娠をして悩み孤立している女性たちにこれからも着実に届き、その出会いと支援が女性の人生を変えるきっかけにもなることを願っています。

一般社団法人 全国妊娠SOSネットワーク
理事 赤尾さく美

運営団体

公益社団法人 愛知県助産師会

〒464-0077

名古屋市千種区神田町5-8 千種公園うたの森3階

TEL・FAX / 052-721-7118

電話対応 / 月・水・金曜日 10:00~16:00

Y.KOJIWA

©2024 公益社団法人愛知県助産師会